平成28年4月18日　日刊産業新聞

廃バッテリー

韓国、対日輸入1万トン超

3月19％増　総量は過去最多

市中相場75―80円に上昇

韓国関税庁が15日発表した貿易統計によると、3月の日本からの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入量は前月比19・4％増の1万773㌧。約2年ぶりに1万㌧を上回り、対日輸入圧力を緩めていた昨年10月―1月と比べて2―3倍に達した。総輸入量でも4万㌧を突破し、過去最多を記録した。

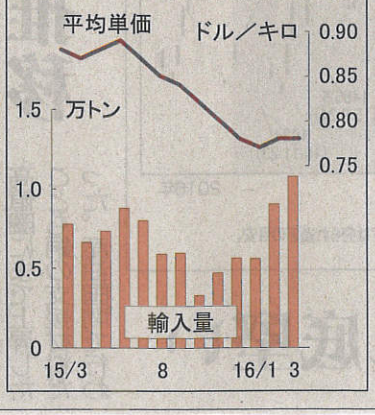
鉛二次精錬業が盛んな韓国では、リサイクル原料の廃バッテリーを海外から大量に調達している。昨年後半からは自動車用バッテリー製品の主要輸出先である米国とアラブ首長国連邦（UAE）からの原料リターンが安定し、対日輸入を抑える局面もあったが、ここにきて完全に復活してきた。

その対日輸入量は、韓国側が放射能検査基準を厳格化したことによって滞貨した昨年10月、約4年ぶりの低水準3297㌧まで減少したが、その後は5000㌧台を回復。2月は1年2カ月ぶりの高水準9023㌧まで急増した。3月はそれを上回り、2014年4月の1万1375㌧以来、過去2番目の高水準となった。

3月の韓国の総輸入量は前月比14・4％増の4万1389㌧。日本に続く輸入先は米国8134㌧、UAE7749㌧、トーゴ3550㌧、ドミニカ共和国2682㌧、シンガポール2072㌧、ブルネイ1421㌧。日本に加えて、米国から7カ月ぶり、ドミニカ共和国から8カ月ぶり高水準だったことから、昨年6月の4万64㌧を上回り過去最多に達した。

対日輸入の平均単価は前月と同じキロ78㌢だったが、為替の円高ドル安が進んで割安感が高まったことも、数量増加の一因として考えられる。なお、韓国の輸入全体の3月平均単価は前月比1㌢高の80㌢。昨年6月の直近最高値94㌢から下がり続けていたが、10カ月ぶりに小反発した。

韓国からの輸出圧力を受けて、日本国内の廃バッテリー市中相場は値上がり。2月下旬にはキロ70円前後まで軟化していたが、足元は75―80円に上昇しており、国内二次精錬メーカーも再び原料調達難に陥ってきた。3月中旬から11％下落している鉛建値とは逆行高をたどり、あらためて市中相場が、韓国向けの輸出事情によって変動することを印象付けている。

韓国の対日廃バッテリー輸入

韓国貿易統計より作成